

質問者 B への回答書（この回答内容は、説明会で質問を受けた内容に対し後日回答したものです）

1. 車両交通量増加による懸念

番号	質問内容	回答
①	本開発により 40 戸を超える建物利用者及びその送迎等のために、融雪設備及び歩道が設けられていないヒラフビレッジ内の狭い道路を通行する車両が顕著に増加することが想定される。	<p>冬季におけるヒラフビレッジの交通の危険は幅員の狭い急こう配の道路と高密度な建物にこそ問題があります。</p> <p>雪庇などによる落雪とそれを気にしながら歩く歩行者を狭い道路の中で車が通過することが危険です。</p> <p>新しい計画道路は緩勾配で幅員も 12m と広く歩道もあり、さらに建物も 6m 以上セットバックして建設されるなど、明らかに安全な経路のため、現在のビレッジの方々が利用することが多くなっても、新たにビレッジ側に進入する方々が増えるとは思えません。</p>
②	想定される車両交通の増加は、すでにピーク時に渋滞となっているヒラフビレッジ近辺の道路をさらに圧迫することとなる。	上記 ①の回答を参照

2. 安全への懸念

番号	質問内容	回答
①	開発区域とヒラフスキー場、ニセコ東山、アンスプリ方面を結ぶ開発区域への実質的な近道となるヒラフビレッジ経由のアクセスにおいて、サクラ坂の交通量が多大に増えることが懸念される。 サクラ坂・ドングリ通りのクランク部分は急勾配の上、路面が凍結するために事故が多く、交通量が増えた場合そのリスク、特にセンタービレッジに向かう歩行者への危険性が増大する。	車両交通量増加による懸念 ①の回答を参照
②	ローワーヒラフの道路は、冬季は子供や歩行者に多く利用される。ビレッジ内を通過する車両の増加は子供や歩行者にとって大きなリスクとなる。	車両交通量増加による懸念 ①の回答を参照
③	飲食店やホテルの多いモミジ坂は、既に冬季の間車両と歩行者の通行が多く、道道 343 へと抜ける車両交通量の増加は歩行者にとって非常に危険である。	車両交通量増加による懸念 ①の回答を参照

3. 環境への影響 ～ 河川

番号	質問内容	回答
①	長さ 50m程度の冷水川の部分が開発区域とヒラフビレッジを結ぶ新設道路の下に暗渠化されることとなる。その結果、尻別川へ抜ける河川流域のトレッキングがブロックされることとなる。	ボックスカルバートによる暗渠計画について、「北海道建設部土木局河川課の河川事業設計要領」の基準により計画をしており、安全に河川を流下させる施設としています。また横断する新設道路の法面勾配も 1:1.8(約 30° 以下)の緩い勾配であり河川をトレッキングする場合も上り下りが可能となっています。
②	暗渠化と新設道路の建設による法面の形成及び盛土工事の結果、自然で美しい里川の景観が損なわれる。	法面の緑化植栽など景観に配慮した計画といたします。
③	森林法に基づき、北海道が推奨する河川沿い両側 30mの森林緩衝帯が設けられていない。	森林法の開発行為の窓口とは残置森林の配置について、協議を行っております。森林法の原則は開発区域外周から残置森林を確保することとなっておりますが、今回は現況河川が近いことため変則的な配置にはなりますが 30m以上の残置森林帯を確保しています。

4. 環境への影響 ～ 森林

番号	質問内容	回答
①	道路や法面の開発工事、密な区画に建てられる別荘の建築物工事、調整池の整備のために、実質的には想定を超えるローワーヒラフと同等規模の膨大な既存森林が破壊されることが懸念される。	開発区域内の地盤調査を行っております。地盤強度に見合う仮設土止めを行い、計画以上の伐採が発生しないよう設計を行い、建設を行います。また設計についてはガイダンスを作成し建物オーナー様とも打ち合わせを行い別荘の建設を行います。
②	北海道が推奨するように、通常であれば残置されることが望まれる河川沿い両側 30mの森林帯が、法面・宅地・道路の形成により損なわれる。	開発区域外周からの残置森林を優先して配置しております。その他は有効利用をしております。

5. ニセコ/ヒラフのグローバルイメージの低下

過剰ともいえる本開発の現在の計画案がもたらす影響について

番号	質問内容	回答
①	すでに車両交通量の多いビレッジ内における交通量のさらなる増加。	交通量の増加に対応するよう新設道路を接続する計画としている。
②	歩行者の身の危険に迫るリスクの増加。	冬期間急勾配で狭いビレッジ内を上に向かうより、勾配が緩く広い新設する道路を利用する車両が多くなり、ビレッジ内の車両の通行量は減少し、歩行者へのリスクは減少するものと考えています。
③	逆戻りできない自然環境への悪影響は、ヒラフとニセコが持つリゾートのイメージとブランドバリューを著しく低下させる結果となる。	冬期間中心のヒラフの来客状況をグリーンシーズンもお客様に来ていただけるようコンドミニウムではなく、森林の中にたたずむヴィラにすることで自然との触れ合いができる計画をしています。 倶知安町のニセコひらふ地区の発展及び持続のための計画と考えています。